

# 筆山

第16号 / 1993.7

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同学社気付 ☎03-3816-7011 / FAX 03-3816-7044 編集人 / 藤宗俊一 (42回)



1992年 紅白歌合戦 (11面掲載) — 写真提供・NHK

三十年前、一九六三年（昭和38年）の夏、初めて渡米。世界の流通業界の勉強であった。業種も年齢もバラバラの十五人のグループだが、観察していると三つのタイプに分かれた。過半数は無条件降伏派。こんなすごい国によくぞ戦争を仕掛けたものだ、と、驚嘆と反省ばかり。三分の一がこれに対する国粋派。こんなまずいもの喰えるかといったような祖国郷愁のタイプ。そして、極少数が是非々主義の開明派。

警戒すべきは、イメージのレッテルである。「高知県人は大酒呑みだ」ぐらいなら御愛嬌で笑いとばせるが、それが国や企業や個人の実質の評価に絡んでくると事は重大である。レッテルにとらわれず、前言に謬まりあれば遅滞なく修正するのが勇者である。そして、敗者復活戦が適正に行なわれる社会は健全だと思ふ。なお、三十年前、帰国して二ヶ月程の11月22日、初めての衛星中継で送られてきた画像が、若きケネディ大統領のダラス暗殺。アメリカの強大さと恐ろしさを教えられた一年であった。

## 平成五年度 新年総会

## 橋本知事来る！



平成5年の関東支部新年総会は、1月9日大手町サンケイホールで開催され、約三百名が出席した。学校からは、森田校長、籠尾先生をお招きし、関西、広島支部からも来賓の出席を頂いた。

恒例の講演会は、橋本大二郎県知事をお迎えし一時間にわたって講演して頂いた。皇太子妃決定の直後だっただけに、皇室担当記者の経験のある知事は、「陛下は『もしもし』という言葉をしらないと

もない程の大忙し。中には、「我が子も将来、知事のように」と、知事に子供を抱いてもらって、記念撮影するほほえましい風景もみられた。会場では、しばらく続いた仮設の大畳は姿を消し、今回は立食形式で、屋台も登場した。皆、広いホールを回遊し、よりよく動き回り、随所で立ち止まっては談笑の渦ができた。待ち合わせた人と結局会えずじまいの御人もいたという。また後半には、福引も登場して、当選者は壇上で豪華な景品を受け取り、「おつりが来たぜよ」と大喜び。老若男女、我々が同窓生の集いは今年も大盛会だった。

## 関東支部だより

## ●関東支部活動報告

▽1月9日 新年総会(サンケイホール・300名)

▽1月15日 広島支部総会に鶴和副幹事長出席

▽1月18日 常任幹事会

▽1月23日 関西支部総会に壺坂副幹事長出席

▽1月30日 東海支部総会に溝渕幹事長出席

▽2月1日 センバツ野球寄付募金活動開始

▽3月27日 甲子園応援

▽4月16日 顧問・役員会

▽6月1日 筆山編集会議

●平成五年度会費納入状況

6月1日現在922名276万6千円。未納の方は同封振込用紙で三千円を振り込んで下さい。

振替口座東京71142816

●野球部寄付600万円にセンバツ野球に出場の母校野球部に関東支部では757名の方々から総額615万2千円の寄付が寄せられました。

ご協力有り難うございました。

●2月1日に正式にセンバツ大会への母校の出場が決定してから、都内各所で祝賀会が続きましたが、特に毎月第一

木曜日に銀座の土佐酒蔵で開催している「一本会」は、2月4日、第40回の記念会となり、店からはみださんばかりの大勢で大混雑でした。

## 母校だより

学校長 森田幸雄  
選抜高校野球大会出場に際しましては、特に関東支部の各位には物心両面にわたり、絶大なご支援を頂き誠に有難うございました。心から御礼申し上げます。力及ばず第一回戦で涙を吞みましたが、賜りましたご声援の数々を奮起の糧として、次なる目標を目指して精進中ですので、引き続き暖かいご声援のほどお願い申し上げます。

## ●平成五年度大学入試結果

進学概況 ( )は昨年度  
北大3 (1) 東北1 (5) 東大6 (8)  
早大42 (34) 慶大29 (25) 東工2 (2)  
中央19 (11) 東理23 (30) 一橋0 (4)  
明治18 (23) 立教6 (14) お茶1 (1)  
青山10 (17) 日本28 (25) 上智6 (5)  
名大1 (3) 阪大10 (7) 京大5 (5)  
同志19 (11) 関学30 (21) 神戸7 (6)  
立命18 (23) 関西20 (16) 九大2 (4)  
自医2 (2) 高医10 (7)

今後国立大現役合格率の回復と飛躍的アップを軸とした指導体制の強化に全力を挙げ所存であります。

●県下高校総体関係の成績  
男子ハンド・優勝▽男子バドミントン・個人ダブルス2位▽女子テニスシングルス・2位以上四国・全国大会出場

### 本部だより

幹事長 池上武雄(28回)  
●平成5年度総会日程

8月7日(土)三翠園ホテル  
羽方将之氏(38回)を迎え「技術とライフスタイル・電子立国日本の歩みと今後の課題」の講演。多数のご参加をお願いいたします。

●同窓会会則検討委員会の答申の骨子について

松岡俊夫委員長(20)を中心に五回にわたる熱心な討議の結果として、3月26日、町田会長に答申をいただきました。改正案は、議案として総会でおはかりをいたします。

改正案の骨子は「集う同袍は、すべて同窓会の会員となる」との広い視野に立つて改正を行わんとするものです。準会員については、中途退学者や転校者のうち「同窓会の目的に賛同したもの」との

意志確認部分と「準会員は五千円」の入会金規定を削除するものです。

そのほか、「会員の資格喪失及び回復」に関する条文がなかったのを二条を新設することになっております。

●谷川寛三先生を讃え感謝する会の開催

3月18日(木)高知新阪急ホテルにて、自民党県連を中心として盛大に開催されました。同窓会からも町田会長ほか多数の方が参加いたしました。

### 東海支部だより

支部長 水谷 昭(22回)

●支部総会は1月30日に「ねぼけ」(市川尚孝(51)店長)で開催され、約40名が出席。生憎、土佐高の卒業式と重なったため、森田校長をお迎えすることができず、些か淋しい思いもありましたが、関東支部からは溝渕幹事長が参加して下さり、賑やかな盛り上がりを見せました。この会にも昭和50年代から60年代の若々しい卒業生の参加が少しずつ増え、嬉しい傾向を示しています。

●これからゴルフ大会、夏の集まり等、例年通りの行事予定が控えています。

### 関西支部だより

事務局 竹原暢子(28回)

●1月23日(土)新年パーティー開催。陶芸家で大阪芸術大学教授の柳原睦夫氏の「陶芸よもやま話」を聴く。六時からのパーティーには学校・本部・各支部よりのご出席を頂き百三十名程で賑やかに開宴。

●二月にはいり甲子園出場決定を受けて募金活動にはいる。千三百名の同窓生、そして県人会各ブロックの方々にご協力を依頼、同窓生は約四百名の方々のご協力を得ました。

●3月21日母校野球部チームを関西支部有志でお迎え。27日、待望の試合。結果はどうであれ甲子園で母校のユニフォーム、校章を熱き思いで見ることが出来て感激。

●「なんぶう」第10号発行のため編集会議にはいる。七月中旬発行予定。

### 広島支部だより

事務局 小島一洋(31回)

●5月29日(土)、広島市での高知県人会に橋本知事夫妻が来られ、同窓生多数が夫婦等で出席した。約40分、知事に就任して以来ご尽力されてきた事業の数々とその背景の思

想、ご自身の行動の軌跡、そして今後の高知県に対するロマンをもとに展開されようとしている事業の手がかりのひとつひとつを丁寧に説明された。アツという間の強烈なる感動の時間が広島に漂った。

●広島同窓生と共に、この三月甲子園の母校の応援に駆けつけた。私達は全力疾走の姿を日本中に久方ぶりに再現できたことをこよなく喜んだ。土佐高健在なり。全力疾走は不滅である。

●我らのヒューマン・ネットワークを全力疾走させよう。郷土に基礎体力をつけ、その上に個性をつけよう。われらが友の青春力の融合化で魅力一杯の土佐の高知を作ろう。

### 筆山会だより

第24回 筆山会ゴルフ (9.2)

(優勝)小松三男(41) 93 21 72  
②山中(24) ③浅井(30) ④BG竹田(33) ⑤北岡(5) 寺川(12)

伴(16) 久保内(20) 宮地(21) 近沢(26) 福本(28) 新階(30) 吉野(31) 高島、藤原、宮川(33) 橋田(37) 八井田(34) 永野、中島、三宅(38) 横原(41)

次回は十月上旬の予定。

第23回 筆山会ゴルフ (10.28)  
(優勝)永野博子(38) 94 25 68

## いつまでも心に残るおつき合い



島崎和歌子

### 営業店舗

- 高知県下.....77店
- 徳島県下.....27店
- 香川県下.....9店
- 愛媛県下.....7店
- 本州地区.....11店

ぐんぐんバンク

四国銀行

本店/高知市はりまや町1-1-1 ☎(088)23-2111

今、こんなことをしています

11

## コックピットドアの向こう側

日本航空ジャンボ機機長

吉本 豊(44回)

我が母校、土佐高の卒業生は色々の分野で活躍していますが、航空界にも意外と沢山の同窓生がいます。パイロットだけでもJAL、ANA、JASの3社合わせて10名程います。

さて、ビジネスに観光につきかり身近になった空の旅ですが、コックピットドアの向こう側でパイロット達が何をやっているか意外と実態は知られていないので、その一日を紹介します。例えば日本航空101便、東京―大阪の場合、出発は午前6時55分ですが、その1時間20分前に出社します。現在私が乗務しているB747-400型のパイロットは三百名余りいますが、同乗するクルーの顔ぶれはそ

機関士は乗務せず、パイロット二人だけで運行されます。

さて運航管理室に行き、天候、航空に関する情報等をチェックして飛行計画を検討します。飛行コースは決まっていますが高度や予備燃料の搭載量等はその日の天候等により変更することもあります。ちなみに燃料の最低搭載量は航空法で定められています。意外と少なく、目的地まで飛んで、その後代替飛行場に行きその上空で45分待機できる量です。飛行機にとって余分な重量は大敵なので、目的地に行つて更に何時間も飛べる程の燃料は持っていないんです。

飛行計画にサインした後、客室乗務員と顔合せをします。そしてクルーバスで飛行機に向かいます。これが出発の50分前。整備責任者から機材状況の説明を受けた後、外部点検を行います。この間、副操縦士はフライトマネージャー・コンピュターへのデ

ータ・インプット等をやっています。これが完了するのが約15分前。この頃には乗客の搭乗も始まっています。乗客のチェックインが完了したら、離陸重量や重心位置がデータリンクで送られてきます。それをコンピュターに入れて準備完了。出発5分前に管制塔に連絡します。全員搭乗しドアが閉められると再び連絡し、飛行計画の承認を受けま

す。エンジンスタート後、地上滑走し滑走路に向かいます。地上滑走はエンジンの推力で進み、方向は地上専用のテイラーで変えます。離陸はエンジンに最も負担のかかる時であり、故障した場合、離陸中断するか継続するか瞬時の判断と操作が要求されます。このため現在のところ自動操縦では対応出来ず、パイロットが手で操縦しています。離陸後安定したところで自動操縦に切り替えます。この後、最終進入まで自動操縦で、直接操縦桿は握りません。余談ですが世間一般ではパイロットは全て自動操縦任せで何もしてないと勘違いされていますが、実は自動操縦装置を操作しているのです。オートパイロットは縦方向で

10種類、横方向で6種類、オートスロットル(エンジン推力)も5種類モードがあつて、これらを状況に応じて使い分ける必要があり。つまり自動操縦装置を介して飛行機を操縦しているのです。また、現在の旅客機は地上からの遠隔操縦は一切できません。管制官との無線のやりとりは有つても、飛行機を制御するのはパイロットです。このため、不測の事態に備えて2人のパイロットが乗務しているのです。また、航空機の飛行方式には有視界飛行方式と計器飛行方式があり、定期便は後者の



JL731便(成田 静岡)の機中にて、同級の寺田氏と共に。

方式で飛びます。常時、管制機関の指示に従って飛行するわけですが。管制機関は航空機の衝突防止ならびに秩序ある流れを維持し促進するのが目的ですが、航空機の運航ならびに安全に対する直接かつ最終責任は機長にあります。離陸して巡航高度に達するまでは、加速してフラップを



待機中の新千歳空港で一息

減速しフラップを出し、最終進入は滑走路から出ている電波に乗るように、機をコントロールします。大阪では自動着陸は禁止され

引つ込めたり、コースを細かく変更したりで忙しい状況が続きます。また飛行場周辺は他の飛行機も多く、充分な見張りをする必要があります。大阪行は通常2万4千フィートあたりまで上昇しますが、巡航に入れば一息つきます。もう既に伊豆半島あたりにさしかかっています。天気が良ければ富士山や箱根がきれいに見えます。コックピットから見ると地形や空の様子は何年たっても見飽きません。客室と違って窓が広いので、夜間飛行の夜空や、夜明け直前の東の空などは息を呑むほど美しいものです。パイロットになつて本当に良かったと思います。積乱雲や乱気流がある時は神経を使います。いくら

科学が発達しても自然の力にはかないません。高度やコース、速度を変えて対処するのですが、揺れが止まらないこともあります。気象レーダーが装備されていますが、雲中の水滴を映すだけで、晴天乱気流には全く無力です。キャビンではサービスの真つ最中ですが、天気が良ければ我々は浜松あたりまでは少しのんびりできます。その後着陸準備に入ります。先ず目的の最新気象情報を入力します。それによって進入方式を決め、コンピュータに入力します。伊勢湾を過ぎた辺りから降下を開始します。そしてISEポイントから地上のレーダー誘導により最終進入コースまで飛行します。そ

ているので、最終的には手動で着陸します。現在国内で自動着陸ができるのは、成田、千歳など四つの空港だけです。着陸は離陸と並んで緊張する場面です。クリティカル・イレブン・ミニッツという言葉が有りますが、離陸の3分間、着陸の8分間が最も事故の起きやすい所です。事故防止のため細かい手順が決められており、進入の節目節目で二人のパイロットが声を出して確認したり、許容範囲以上コースや速度がずれると、副操縦士が声を出して注意喚起します。約250トンの巨体をスムーズに接地させるのは難しい仕事です。もちろん安全には着陸させられますが、風その他の条件が毎回変わるので、たまにはドシンと着きます。また、雨や雪の日には安全のため意図的にドシンと着けます。乗客の皆さんが今日のパイロットは上手だとか下手だとか言いますが、いろんな状況があつて、客室ではそれが分からないので、本当は我々がプロでも客室に座っている時は批評できないものです。滑走路をクリアして駐機場まで移動します。ガイドライ

ンに沿って行きますが、停止位置が近くなるとラインが見えなくなるので、マシーナリー(地上誘導員)の指示に従い停止します。呼吸が合うとピタリ停止線に乗りますが、数十センチずれることもあります。羽田や大阪には女性マシーナリー何人かいますが、結構うまく指示を出してくれます。

エンジンを停止して、チェックリストをやり、このフライトは完了。乗客が降機した後航務課へ行き、最新の天気をチェックして次のフライトの準備をします。地上滞在60分で再び空中の人となります。国内線ではこれを一日2〜3回繰り返します。

最後に乗客の皆様にあドバイス。シートベルトは離着陸時はもちろん、その他の時も着席している間はベルトを外さない方がよいと思います。突然揺れてもこれなら怪我をしません。また、機内の気圧高度は二千メートル前後となり、アルコールの回りが早くなるので飲み過ぎには気を付けて下さい。では、機上でお目にかかりましょう。

龍馬も、鯨も待っている  
ふるさと高知

暮らしいきいき、ビビッドバンク

**高知銀行**

東京支店 中央区八重洲2-6-21 (電) 03-3273-3061



仁城川

2月1日の大会出場決定後、早速、皇太子御婚約恩赦により罪一等を赦された戦犯を含む外野席首脳が集

まり「応援自肅解除！寄付金一〇〇〇万！」の行動方針を採択、一転してお祭りムード。「組合せが決まるまで仕事の予定がたてられない」とぼやく声がしきりに聞こえ、抽選日の午後は事務局の電話は鳴りつばなし。竹内氏（36）の好意でやつと確保した「のぞみ」の切符20枚はあつと言う間に消えてしまった。

当日、新大阪のホームには『土佐高等学校同窓会関東支部』の幟がひるがえり、家族連れを含む老若男女の異様な集団がゾロゾロと。大阪駅では幟を見た中年男性が駆け寄って来て「私は、土佐高校の大ファンで先日社員旅行で高知に行った時も、観光には参加せずグラウンドに行つて練習を見えました。これから仕事をすませて駆けつけます。頑張りましょう」と連帯のラブコール。

土曜日とあって、「予約券がないけど、入場券もらえます」といった同胞も次から次へと駆けつけて来て係は昼食をとる暇も無し。差入れのホカベンをかき込みながら「予約券は決勝戦まで使えます」と切符を渡す。「帰りはあそこのホテルで祝勝会じやきに」「大阪駅発甲子園行きの夜行列車があるとか。今度はそれに乗ろう」「明後日高知に行き、二回戦の日は乗継ぎの為大阪に出て熊本に行き、帰りがまた丁度準々決勝の日に重なってしまつて……」「準決勝からは芦屋の寮で合宿じやあ」……。一回戦の前だというのに、話はエスカレートするばかり。土佐の人間は中庸という言葉すら知らないらしい。

戦いすんで——戦い前の元氣はどこへやら、「残念  
会を」という声もなく、一人消え、二人消え、幟も小  
さくたたまれて……。それぞれの胸に未消化の想いを  
残して、長かったセンバツの春は終ってしまった。

しかし、来ました、届きました、熱き便りが。  
『土佐高校野球部応援席は不滅です！』  
(F)

始まる前に実力は45対55で相手が上だと聞いた。しかし私の人生観には全員一致して事に当たれば予想もしない偉大な力を発揮するものだというのがある。高校野球の好きな従弟からは高知県の甲子園での勝率は全国一だと聞いていた。一回戦は多分勝つだろう。また勝ってくれと思つて初めての甲子園に来たものだった。

八回を無得点で抑えさえすればと思つたのもその通りになつた。

しかし伏兵は最後の九回にあつた。今までまずまず抑えてきていた東北高校の第一の一強打者四番を迎え、最初の一球で津野君は今までに一度も見せなかつた捕手が後逸する低投をした。ゴルフでここで打つてやろうと意識して左への引っかけボールを打つと同様に、勝利を意識した気負い

始まつて最初の大ピンチにも少しの動揺を見せず、津野投手と好捕手の頑張りとバックの好守備で、これを無得点で切り抜けたときはこれはいけるなと感じた。そして2対1のアヘッドを七回に津野君のみごとなライトオーバーの二塁打で逆転したときは、応援席の大歓声とともに勝利への確信をいっそう高めたものだった。





がさせる失投である。「これはいかん」と思ったのは私一人ではなかったかも知れない。「四球で歩かせてもよいから、くさい球を」と思った。

この心配はレフトオーバーの三塁打を打たれる結果になってしまった。気落ちした津野君は次の五番にもセンターへ抜けるヒットを打たれ、せっかくの一点のリードも無死のうちに同点に追いつかれ、その後2点の追加で5対3の残念ながらの敗戦となった。

しかし翌日の朝日新聞の「第一戦で去らせるには惜しいチームであった」との戦評の

とおり、好投好打の好青年津野君や全員野球で頑張った土佐高野球部選手諸君と、ここまで育て鍛えて見事甲子園出

場を果たした籠尾先生のご健闘とに心から感謝と拍手を送りたい。

そしてこれを契機に母校の学業成績でも土佐高創立精神の復活することを期待したいと考えるのは欲張りであろうか。夏の甲子園も期待しよう。

#### ●9回 中尾 成彦

四年ぶりにまた甲子園に応援にいった。今回は母校と東北高校の応援である。という

い応援したが、前回の応援のほうがよく統制され活気があったように思う。勝敗は時の運と言うが実力は先方が勝っていた。しかしファイト一杯の母校はよく頑張ったあわや勝てるかと思ったが、ラスト九回の表東北は四番の三塁打につづき五番の彼がヒットを打って形勢逆転した。球場の近くに二男が住んでいるので、今後も土佐が出場すれば応援に行きたいと思っている。

#### ●16回 曾和 純一

伍ビールで景気を付け、カツどんで幸先を祝い、この日のために新調した校章入りの白いシャツ姿で勇躍甲子園の一塁側アルプス・スタンドに陣取る。後攻の我が方が先ず先制、逆転されたのを再逆転していいよあと一回守りきれば甲子園の空に校歌が流れる。その願いはむなしく全力疾走して消えて行った。

むなしかった。しかし、あの鮮やかなスクイズ、ブッシュバント、ライトオーバーの勝ち越し打、神経のいきとどいた守り、観るものの心に爽やかな春風を吹き込んだ。

帰って録画を見ながら、この日が曾我部校長の十三回忌に当たるので、一勝を捧げた

かったという籠尾監督の気持ちにじんときた。

甲子園にあの白い全力疾走の旋風が舞い、向陽の空に流れる日を待とう。

#### ●28回 川村 愿

土佐高の選手皆さん93センチバットの感動をありがとう。本当によい試合でした。勝利の女神はほえんでくれなかったですが、私たち先輩は、満足して球場を後にしました。

前日の夕方、勤め先近くのJR市ヶ谷駅みどりの窓口でこれなら席が残っているといわれて買った「お盆」のぞみ。友達を誘っても無理だ

と一人で乗りこんだのですが、何と関東支部の先輩・後輩の方が十名くらい、揃いのトレーナーのえりをのぞかせていらつしやいました。それぞれ

の野球への熱い想いを秘められて、母校の応援に心は一つという感じでした。高知新聞に連載された土佐高特集のコンビのスクラップや、バッテリーが表紙に載った「週刊ベースボール」、巻頭に大特集記事の載った「ホームラン」等

を見せて頂きました。みなさん身軽ないでたちですが、私はけっこう荷物が多くて、コインロッカーに入れ

るつもりでしたが、初対面の後輩の方がスーツケースをずっと運んで下さって、申し訳なかったと思います。ありがとうございました。

#### ●28回 西岡瑞子

甲子園球場では同じ28回の方々にも、何人かお会いしました。もと野球部のレギュラーで甲子園に出場された方々、「ちょうど40年前の今日負けました」とのこと。その年の夏、私たちが卒業した直後の選手権大会で準優勝、「優勝旗のない優勝校」と讃えられたものでした。ことしの夏も頑張ってください。

八青春が蘇った日V母校卒業以来40年、こんなに青春が蘇った日はありませんでした。「甲子園へ行こうよ」と誘いあって、この日、中谷元さん、山本有二さんとともに空路飛び立ちました。国会は幸いにも土曜日で閉会。

一塁側応援席最前列へ案内された三人は、母校のトレーナーに着替えて、「フレールー土佐高！」マスコミは「母校勝利！願いは一緒、国會議員も呉越同舟」と報道してくれました。二回裏1点を先制、よしよしと思うまもなく、三回逆転を許す。七回津野君



の2点タイムリで再びリードしたときは行けると期待しました。津野投手の父君には、二月に祝賀会でお会いし激励したことでしたので、感激もひとしおでした。

力投の津野君、ナインの皆さん、監督生活30年の籠尾先生、ほんとにご苦労さまでした。

「全力疾走、さわやか野球」を再び夏に、今度は校歌を一緒に歌わせて下さい。

### ●30回 藤谷 敏郎

久しぶりの甲子園。本当に感動の試合に触れ、心が踊る一日でした。選手の手皆さん、在校生の皆さん、本当にごくろうさん。土佐高関係者以外の方の応援のすごさには本当に嬉しく思いました。今話題のJR「のぞみ」号でかけつけ、土佐高野球部の真白なユニホームと全力疾走に酔い、私自身土佐中の野球部で山本先生にお世話になった思い出などの一コマ一コマを、また土佐高三年のときソフトテニス部で全国優勝を遂げたことなど重ねながら、やつぱり「土佐高のOB」であることのうれしさと強い絆を甲子園のスタンドであらためて心に刻むことが出来ました。本当に有り難うございました。

### ●30回 西内 一

中谷元代議士(51)と空港から直行。北岡、近藤両先輩と3回戦に備えて南部・鹿児島商工戦から観戦。

本戦では両先輩とも起立して校歌・応援歌を声高らかに斉唱。得点の都度お互い力強く握手、握手。途中も必ずや

逆転すると互いに強く言い交わす。よもやの再逆転。試合の流れから選手、監督とも止むを得まい。すばらしい試合で意外に試合後もさわやか。甲子園のグラウンドの緑と浜風も心地よく印象深かった。

### ●30回 浅井 伴泰

七回裏に見事逆転。八回も三人でおさえ、あと三人と思つたら、永年の籠尾監督ご夫妻や関係者のご苦労が脳裏に浮かび、思わず目頭があつくなつた直後の逆転負け。

ちょうど40年前、当時高校二年生だった昭和二八年夏の松山商との決勝戦。一点リードで九回二死無走者になつた時、全国制覇なんて割と簡単だなあと一瞬思つた直後同点に追いつかれ、延長十三回で惜敗。甲子園では、一瞬の心のスキがおそろしいことは、グラウンドもスタンドも同じで昔も今も変わっていない。

組み合わせが決まつた直後、岩村事務局長から関東支部部分のアルプス席券四百枚を前日中に受け取るようにとの厳命があり、前夜訪ねた宿舎で縁起をかついで、選手用のワラジのようなステッキとカッパをがちそうになり、スタミナをつけてのぞんだのに残念、無

念。しかし一度は逆転し、勝利の校歌の夢をみさせてくれたがんばりに拍手。

試合後、目星をつけていた祝宴予定の店を横目でにらみ、甲子園を一刻も早く忘れようと思つた。途中一緒にいた溝淵(32)大橋(36)両氏を誘い、羽田からわが家へ直行し、ワイフ(35)と四人で残念会。ピデオで悪夢の九回を見て、口惜しさが再びじわじわとよみがえり、マイゴルフと同じく、思いは「タラ」「レバ」の連続でつい深酒。翌日しばらくおさまつていた痛風再発。体調をととのえ、夏も行くぞ甲子園!!

### ●30回 原 弘道

「ガンバレ、ガンバレ、土佐高」と大声をあげて応援。17年振りのセンバツ出場、居ても立つてもいられず、丁度土曜日だったし、朝の新幹線に飛び乗り甲子園に駆けつけた。

純白のユニホーム、全力疾走と、さわやかな後輩たちの活躍がなんといつてもうれし。できれば校歌を聞きたかったが残念。東北の選手に比べてなんともひ弱な感じ。夏にはもつと体力をつけて頑張つて欲しい。

### ●33回 町田 武仁

ラッキーセブン、久しぶりに「向陽の空」を斉唱。念力通じてチャンス到来。津野君の強打球が目の前に飛んでくる! 抜けた! 逆転の右越二塁打! 総立ちのアルプス席が揺れる。そして迎えた最終回。この回を切り抜けてくれたら... ふと頭をかすめたのは中二(昭和28年)の九回表。緊張が流れる。投げ急ぐな、投げ急ぐなと思わず叫ぶ。そして、しかし、またしても... 同窓生でもない女房殿の咽からしの大声援もむなしく。残念! でも、あの純白のユニホームと変わらぬキビキビしたプレーはなにもものにも換えがたい回春の清涼剤。後輩諸君、ありがとう。

ひとつもかわつちやらんお元氣な担任の直サンと短時間ながらお会いできたし、フルムーン(?)旅行の約束も果たせたし。当晚、大阪キタの「いごっそう」にて痛飲。

### ●37回 川添 正之

ナインのおかげで甲子園に行け、高知、大阪、名古屋などの懐かしい仲間にも会え、よい思い出が生まれました。プレーは全力疾走、勝負はゆっくり、最後まで。

## ●38回 三宅ヨシロウ

新幹線から引き続きの酒が回ってきたかな、と思った頃、試合が終わった。戦前の予想Aクラスの「東北」相手に「力負けだな」と、仲間も納得。その東北が二回戦で「鹿児島商工」に完封負け。センバツの予想ほどあてにならないものはない。エース津野君は三度も自分の打席で途切れ、その都度マウンドへ全力疾走。投手くらいは軽めでよいんではないか、と思ったのは私だけではないかと思うが……

## ●39回 大和田洋子

選手の皆さん、あなた方は大層美しかった。打席にすくつと構え、また守備に全力疾走する姿……。私はガンバレ土佐高！と連呼できる自分を誇りに思い、本当に幸福でした。左右に並んだ39回の方々もきつと同じ思いだったのでしょう。ゲームセットの後も皆晴れやかでした。

事務局の皆様、前日からチケットの確保に奔走して下さい。先輩・後輩の方々、本当に有り難うございました。

桜には未だしの大阪でしたが、夜には23名の39回生が集い、なんと半数が三十年ぶりの再会で、深夜まで呑みかつ

語り合い、梅田の夜を楽しみました。

## ●41回 小松 三男

私にとって甲子園は昭和41年春以来27年ぶりのものでした。一塁側アルプススタンドに入るや、あの懐かしいユニフォームが目飛び込んでくる。正に間違いない土佐のユニフォーム。甲子園に最も似合うなどと勝手な思いにひたる内に試合開始の整列。

全力疾走！あー、土佐の選手だ。目に熱いものが浮かぼうという時、三塁側からの腹にひびく物音。これは負けちゃおれん。応援リーダーのもの

と声を限りの声援、応援。はつと気付くと試合終了。結果はと見れば、なんと土佐の敗北。なぜ、なぜなんだ。夏がある。あの暑い夏がある。この懐かしい心強い姿をまたこの甲子園で見せてくれ！ 楽しみに待っているぞ若き獅子たち！

## ●42回 牧内 操

二月上旬の夜、久しぶりに同期の片山雅子さんから電話がかかった。もちろん甲子園がかった。彼女の義兄は往年の東大野球部主将片山直久氏(38回)、長男は現役の野球部選手(海城高)だもの。そ

りや行くに決まっている。試合当日、午前五時起きで新幹線に乗り、関東支部ののぼり前で待ち合わせ。子連れ観戦となった。さすが球児の母、片山さんのつばを押さえた解説を耳にはさみながら迎えた九回表……。しかし、あつて

なく勝負がついた。四年前にくらべ、今回は負けてもすがすがしい気持ち。日頃の悪い愚息が「いい試合だったね」となぐさめてくれた。さあ、次に備えてまたへそくりを貯めなくちゃ。オバサンは立ち直りが早いのだ。

## ●42回 藤宗 俊一

久しぶりに会った同級の門脇と曾根崎で盛り上がりた。一杯を酌み交わした後、ホームで、やはり同級の上岡(センバツ準優勝投手)とバッタリ。家族連れで応援の後、前任地の大阪で挨拶回りをしていたとのこと。車中で「全国四千校の中から選ばれた相手に、あれだけ頑張ったんだから立派なもんだよ」と子供達に言い聞かせているのを聞いて、それまでのモヤモヤが一気にふっとんでしまった。良くやった。夏もガンバレ！

## ●47回 岡林 広文

当日新幹線で甲子園に到着

したのが11時すぎ。早く到着しすぎたので甲子園のまわりをゆつくり一周しながらビデオで撮影。ひとまわりして選手入り口のところに来ると、東北高校の選手達が二列に整列して待機していました。さつそくこれもビデオに収め終わり、ふと目の前を見ると向こうのエース番号を付けた佐藤君と目がばったり

合いました。そこで小生「調子はどう？」すると彼、小生を東北高校のOBと思つたらしくニコツとして「バッタリです」。すかさず「実は僕は土佐高OBだけど、今日頑張つてね！」彼、少々ずつこけながら「アツそうですか。ハイ！ありがとうございます。頑張ります」冷静沈着。その妙にリラックスした態度に内心「こりやあひよつとするとやられるかも」

我、素直な心持ちにて敵にエールを送りしこと、彼の発奮材料になったのでしようか



？アホな奴とお思いの方はぜひ一報下さい。

小生の隣で観戦していた高知出身で大阪在住のオバチャンが九回裏、土佐攻撃中に突如トイレに出かける。席に戻ってこないまま、試合終了。ふと席を見ると手提げ袋を置きっぱなしではないか。第四試合の智弁学園の応援団との入れ替えの最中にもその袋持ったままオバチャンを待つていました。結局現れず。やむなく外へでて、警備に当た

ついていた警官つかまえて「拾得物ですがどうしたらいいでしょう？」「それじゃあこちらへ来てくれますか」と連れて行かれたのは選手入口を入ったところにある甲子園事務局。通常試合終了後、勝利チームの監督・選手のインタビュを行うお立ち台のある通路の手前。小生警官と同行したから入れたものの、普通はプレスおよび大会関係者のみが入れるところ。事務局で手続きを済ましてその通路にでると、丁度龍尾監督が記者に囲まれてたんとインタビュに当たっていたところでした。そのまわりを選手たち、警官が待っているのをそれを横目に見ながら、心の中で「お疲れさま。みんな夏もまた来いよ」とつぶやきながら外に出たのでした。外はまことに快晴でありました。

#### ●49回 山崎 文雄

△東京の西、故郷の東▽福岡ドームからの帰りの飛行機のスクリーンの中で純白のユニホームが踊っていた。

大阪にいる頃は、学生時代にはアメリカンフットボール、社会に出てからはバスが好きで甲子園には足繁く通っていた。スタンドに座るといつも思い

出す風景がある……

1・死んだおばあちゃんに連れられて行った城西館近くの朝日新聞屋上から旗を振った準優勝パレード。

2・なぜか正門前の牛乳屋と、眩しいセミの鳴き声を思い出すベスト8進出。

3・よさこいで関西連合の酔いにまかせて乱舞したサイクルヒット。

4・クラブの合宿で痛めた腰をかばいながら、観たナイターのホームイン。

5・十七年前、一番電車で駆けつけた三塁側アルプス。

6・結婚し、生まれた子供と声をからしたビール4杯分の89年夏。

そして今春。僕の右には息子に娘に妻に両親、親族一同ご列席。左を見ると悪友の三ックッサンに、信介・佐介親子がファイナダーを覗いている。な、なんと前にはちよつと老けたね、子連れの香織ちゃん。

「カーン」という快音とともに、思わず研二を抱きしめる僕とオヨヨと立ち上がる壮年早起き野球のシヨートストップ！

ありがとう土佐高！ ありがとう野球部！

春のアルプスの日差しの中

の僕の家族の「ドリームズカムツル」蘇った興奮とともにジャンボは羽田に舞い降りた。

#### ●51回 中谷 元

ソクソクと背筋が緊張し、全身がふるうほどの感動はめったにしたことは有りません。が、毎回裏表での自分のポジションに向かつて全力で駆けつけてゆく選手達の姿には純粋な野球へのひたむきな心が伝わり、そのふるえを感じることが出で、けがれの無い深山に咲く花を見つけた美しさがありました。土佐高野球とは単なる野球ではなく、人間を作り、魂を磨き、時代を作っていく偉大なる教育ではないかという気がします。今後とも良き伝統を守るために、頑張ってください。選手・指導者・支援者の皆様、本当にご苦労さまでした。

#### ●57回 山岡 正人

「ありがとう」その一言に尽きます。

私が小学6年生の春（土佐中に入学が決まったとき）あの玉川選手以来の甲子園。アルプス席で感動しました。へ必勝のはちまきして応援しましたが……9回は本当に惜しかったけど、選手達は胸を張

って新グラに帰って下さい。夏、また行こう！ 最後に、全力疾走、見事でした。

#### ●67回 石川 淑

正直いつて土佐高が勝つ予感はずっと東京にいて、しかも大学受験などで忙しく、土佐高のデータもほとんど知らなかったのにそんな悪い予感を感じていた。試合は最後の最後に逆転負け。まるで僕の今年の受験の可否結果のようだ。前半「調子イイカナ」と思っても負けは負け。受験も不合格は不合格。これから一年、高望みをするよりも、自分に見合ったレベルの大学を目指して、現実的に頑張りたい。土佐高野球部も伝統に縛られすぎて甲子園でたくな

いように、持てる力を発揮して欲しい。

#### ●67回 市川 哲司

私は東京から日帰り甲子園に行ったが、あの負け方は体に悪かった。今度は一回戦突破したいものだ。それから応援の仕方を考えれば良いと思う。応援の伝統を残しつつ、新しさもとり入れる。妙に東北高校に応援が負けていたような気がする。もう一つ先生方の顔を見なかったけどどういうことだろう。いろいろ書いたが、土佐センバツ出場は大変うれしいものであった。（編集部註 試合当日が土佐中合格者発表日だったので、先生方は来られなかったのではないだろうか）



写真提供(6,7,9,10面)・高知新聞社

## 土佐高OB大活躍

NHK事業部 笠井重治(32回)

平成4年12月31日——一年をしめくくるNHK紅白歌合戦は昨年の視聴率を大きく伸ばし、85%とし、大成功のうちに終わったが、その裏には土佐高OBの大活躍があった。

番組の実施本部長——いわ

ば紅白歌合戦の全責任を持ち指導したのが益弘泰男エンターテイメント部長(35)、そして演出の総責任者はエンターテイメント部のチーフ・プロデューサー、島田源領(41)の二人が紅白の中心となって放送された。

またゲスト審査員の出演交渉にNHK情報ネットワーク取締役、国見昭郎(34)が貴花田をくどきに九州まで足をの

ばすなど、実現をしなかったが紅白に協力を行った。

いつてみれば土佐高OBのパワーにより、演出から出演交渉まで行われ、例年がない素晴らしい紅白歌合戦が出来上がった。(一頁写真)

また、春のセンバツ高校野球では母校が十七年ぶりに出場するとあって、永森治スポーツ報道センター長(33)も甲子園球場での中継放送の陣頭指揮に例年になく力が入った。結果的には惜しくも敗れたが、あの純白のユニホーム、全力疾走のすがすがしい試合は甲子園の高校野球ファンには感動を呼んだとOBの一人としてうれしそうに語っていた。

## ゴリラがいて……私がいる

49回 二宮 潔

筆山13号に『ゴリラ画家』として華々しく登場して頂いた阿部知曉(51回)さんが、この3月久々に東京で作品展を開きました。早速訪ねてみると、おるわおるわ！アフリカはじめ世界各国から知曉さんが連れ帰った野生のゴリラ数

十頭。個性豊かに生き生きと描かれ今にも額から跳び出しそうで、彼女の思いがエッチングの一筆一筆に表れていました。思わず私も一頭連れ帰り、我が家にかわいがっています。8月には『ゴリラ訪ねて三千里』(理論社1300円)

ブラジルの言語は中南米各国の中で唯一ポルトガル語。他の殆どの国がスペインの植民地であった時期、ブラジルのみがポルトガルの植民地であったためである。このことは教養ある土佐高出身者であれば誰でも知っているはず！

と思っていたが、一木会の席で「おまん、ブラジル駐在になつたらいいけど、スペイン語は大丈夫かえ？」と、堂々と聞いてくれた御仁がいたので、いささか怪しい。

ポルトガル人が種子島に漂着してから今年で450年になるが、この間に随分とポルトガル語が日本語に入ってきた事も、当然土佐高出身者であれば常識。パン、カツパ、カステラ、シャボン、カルタ等々、思いつくだけでも結構ある。逆に、日本語もポルトガル語になっている。ピョウブ、カタナ、ウルシ等々。

ところが、日本語のごくごく普通の会話が、ポルトガル語ではとんでもない意味になる場合があるので要注意。

ある日のこと——  
「明日の朝の会議は、何時からにしようか」

「九時半からにしよう。午前中に終わらなかつたら、飯を食ってから続けましょう」

これを聞いていたブラジル人は最初はニヤニヤ、段々に変な動物を見る様な目付きになってきた。近くにいた女性に至っては、キツと顔を睨みつけ、ただならぬ様子。何のことか分からない二人はキョトンとした顔。

そこで、一部始終を聞いて

## 足の裏から②

## 九時半!?

38回生

戸田 博之

いた小生がおもむろに登場。

「イカン、イカン、九時半は！クーは肛門。ジは英語のOF。ハーンは蛙。九時半は蛙の肛門の意味だよ。それにメーシヨはさわる。クーは今言ったように肛門。飯を食うは肛門にさわるということになり、女性の前なんかで言ったら、それこそセクハラで張り倒されるぞ」

二人とも「エ——ッ」と、

言ったきり絶句。

「駐在員は日本の代表である。よって、すべからく紳士たるべし。九時半は九時三十分、飯を食うは食事をする。今後は言うべし」と訓戒を垂れた一幕。

その後ブラジル人が会議の話になるとニヤニヤしながら「コメッサ・アス・クー・ジ・ハーン(九時半に始まります)」と言うのには参った。

人の名前も同じ事。クボタという名前は上記の事からも分かるように、やや差し障りがある。ポータに不細工な物という意味があるので、クー・ポータとなると、これもブラジル人のニヤニヤの対象。知人で銀行員の久保田氏は、わざわざ名刺にはKOBOTAと印刷し、クカコから発音していたのを思い出す。大勢のクボタさん、ブラジルに来る時は気をつけてください！

MR. HIROYUKI TODA  
c/o Kawasaki Steel Ltda.  
Paraia de Botafogo  
228 Setor B/509  
CEP2359-900 RJ, BRASIL

を出版予定だとか。知曉さんとゴリラとの出会いを沢山のエッチングと文で綴るゴリラの本。乞うご期待。

## 同期会

### ●33回 関東地区同期会

5月29日、竹橋会館にて。出席者、約30名。

### ●37回 川添 正之

春分の日3月21日に、新宿・歌舞伎町の「土佐へ来てみいや」において五十路を前

に集まろうと、37回生の同期会が開かれました。当日の出席総員27名。間近になって出張でどうしても出れなかったとの連絡が二、三本、皆それぞれ活躍の様子。店長が全然土佐時間じゃないとびっくりするくらい、集合具合もよく、酒が入ればそこは土佐の男と女。うちの娘は二十才前との話があれば、「紹介してや」とか、僕はこの店に来る途中に何人もの女性から声をかけ

られた等愉快な話が続出。中には浜松から駆けつけた女性もおられ、夜遅くまで歓談し、またの再会を約して散会。支部名簿が存分に威力を発揮、名簿チームの皆様本当にご苦労様。同窓生の益々のご健勝ご多幸を祈念致します。

## すきま風

うそつき解散国会の日、宮地支部長が宮中饗宴の儀で賜った「マサコ鯛」にお目見え

比奈子は初恋の相手文也と恋におちるが、莎代理の霊が妨害する。三人は子供の頃、一緒に「かごめ、かごめ」で鬼を囲んでまわって遊んだ仲だった。

霊にあやつられて文也と比奈子は石鎚山に登る。山頂での生身の人間と死霊との斗いは壮絶である。

霊にとりつかれた人間の描写が丹念になされていて現実感を高めており、特に終章では背筋が寒くなる。

これは生に喘ぎ苦しむ現代の世界を垣間みる恐怖からくるものだろう。

会話体のほとんどを占める土佐弁の使い方が実にうまく仁淀川、越知、面河といった地名も懐かしい。(岩)

## 「死国」

51回生 坂東眞砂子著  
マガジナル刊  
西暦293頁  
定価1500円(税別)

「あんた、四国は死の国。死国ということを知っちゃうかね」——死霊を呼び戻す口寄せの巫女のせりふは、我々四国人をどきとさせる。

舞台は高知県西部の山村、高岡郡佐川町から20kmほど入った矢狗村。小学時代をこの村で過ごし、中学から関東に移った主人公比奈子は東京でイラストレーターをしている。比奈子はお盆のとき二十年ぶりに村を訪れた。旧友たちとの再会、同窓会。親友だった莎代理は中三のときに水死していた。

その霊を呼び戻そうとする母親の巫女。四国は死霊うごめく死の国であり、左に廻れば死国への道に通じ矢狗村は死国に一番近い場所だという。

I氏は「土曜日から出張するとは、仕事するつもりあるのか？」と白い目で見られたにもかかわらず出張を一日延期。句いもかぐわしい杉の箱に鎮座します鯛様は、バレンタイン30年、ムートン・ロトシールト、越

乃寒梅、……。我々、下々の者にはめつたにお目にかかれぬ高貴な従者にかしづかれ、神々しいばかりに輝いておられました。思わずヨダレを……いや、コウベをたれてしまいました。

テレビで国会中継が放映される中、おごそかに箸入れの儀が支部長の手によって行なわれ、参列者全員で御相伴にあずかり、東宮の益々のご繁栄を祈った。宴は解散の詔とともに、お開き。「できれば、わが家の愚猫(妻?)にもお骨を御下賜くだされば……」と申し出たA氏は、周囲に「おまん、猫の名前を『マサコ』にせんといかんぜよ」とひやかされたが、折詰めにして颯爽とバイクにまたがり退参。後片付けという名のもと、何本かの従者も参列者の靴に納まってしまった。

## 編集後記

■六月九日、雨ですることもなく夫婦してテレビに釘付け。紀子様、雅子様と庶民プリンセスの流れが定着。「我らが同窓から皇室へ」という二ユースが筆山の紙面を飾るのもそう遠い話ではない? うちの姫君はこの日も朝早くから日焼けした顔でクラブ活動へ。プリンスは夜のJリーグ中継まで用はなしと昼を過ぎて起きてこない。まあ我が家にとっては皇室は永久に雲の上の世界のよう(鶴) ■二宮氏(49)の『S.L. & Co.』に行く。元白金三光町界隈。瀟洒なグレーのビル。一步中に入ると幽玄の世界。夜のバーも雰囲気があるとは我が亭主。同伴の英国人は、トイレに「やはり日本は豊かだ」と感嘆絶句。ちなみに、そこは竹がふんだんに使われ、竹林の中で用を足すかの様。皆さん是非お試し下さい。(永) ■珍しく本業が忙しく、誰も何も言っていない。これ幸いとズボラを決め込んでいたら、酒呑童女さんから「いつ、編集会議?」と呑み会の催促。あわてて、みんなに電話したら、「もう出来上がった?」みんな、いい虫飼ってます。尚、内川校正部長が、今年になって、御主人と御母上をたて続けに亡くされました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、早々の復帰をお待ちしています。(藤)